

声に出して読んでみよう。楽しさが胸いっぱい広がるよ！

五

色

【監修】
角川書店
向山洋一 (TOSS 代表)

名

句

百

選

が

る

た

指導の手引き
(指導する方がお読みください)

5色(四季+新年)に分かれているから
すぐに覚えられる!!

新年



春



夏



秋



冬



3つのポイント

1 俳句という日本の伝統的な文学を、遊びを通して楽しく覚えることができます!

2 試合を通してルールが身につくので、男女の仲も良くなり、どの子も知的になります。

3 札が5色(四季+新年)に分かれていて各20枚なので、試合がスピーディに行えます!



『五色名句百選かるた』の特長

1

一試合三分間
百句を五色に色分けした
のがポイント

百句を五色（新年〓ピンク、春〓水色、夏〓オレンジ、秋〓ベージュ、冬〓黒）二〇枚ずつに分けてあります。はじめに二〇枚（一色）だけでゲームをします。百人一首のように、一〇〇枚だと一試合三〇分かつたものが、二〇枚だと一試合三分で終了します。また二〇枚ずつ覚える方が、ずっとはやく効果的に覚えられます。

2

試合中に覚えられる

五色名句百選かるたは、取り札（絵札）（次ページ参照）の裏に、一句がすべて印刷してあります。

「試合中に裏を見て良い」というルールを導入することで、試合中に覚えることができます。

楽しみながら学べる「五色百人一首」の俳句版

百人一首に革命を起こした「五色百人一首」。その俳句版ともいえるのが、「五色名句百選かるた」です。百人一首は教えるのが難しいといわれてきました。「五色百人一首」は百人一首を五色に分けることによって、短時間で手軽に、教室や家庭で楽しみながら学べるようになりました。「100枚覚えるのが大変だ」「試合時間がかかり過ぎる」という2つの欠点を、新しいシステムによって克服したのです。このシステムをそのまま活用し、俳句のおもしろさ、すばらしさを教えていこうというのが「五色名句百選かるた」です。

俳句は短歌、川柳などとともに短詩型文学として日本の文化を伝え、幅広い人気を得てきました。俳句には、日本人の感性を培ってきた四季を表現する「季語」があります。「季語」は、俳句だけのものです。五・七・五という最も短い文章構成です。「五色名句百選かるた」は、選び抜かれた言葉を洗練されたイラストでイメージできます。また、かるたを通して季語の知識や言葉のリズムを見に付けることで、子供たちがとまどうことなく、より豊かに自分の思いを表現できるようになります。



にさんべん

『五色名句百選かるた』札の秘密

「五色名句百選かるた」は、一〇〇枚が五つのグループに分かれていて、グループごとに色分けされています。

取り札の表には、五・七・五の最後の五音が、句のイメージを表現したイラストと共に印刷されています。取り札の裏には、一句がすべて印刷されています。これが大きな特長です。

読み札には一句すべてと、作者・季語・季節が印刷されています。

読み札の下すみと取り札の裏の下すみに小さくアルファベットと数字が印刷されています。これは色の違いが分かりにくい子供でも支障なくゲームに参加できるようにするための配慮です。「ピンクの札」という言い方をせず、「Aの札」という言い方をして区別します。ピンクⅡA、水色ⅡB、オレンジⅡC、ベージュⅡD、黒ⅡEとなっており、各色二〇枚の札に①から②③までの数字が付いています。

俳句の表記は旧仮名遣いです。子供たちに古い日本語の美しさを伝えてください。



読み札 (表のみ)



取り札 (裏)



取り札 (表)

なまえ
名前

これから
五色名句百選
かるたを
やりましょう。

めいじん
名人を
めざそう！

ごしょくめいくひやくせん
五色名句百選かるた
の遊び方

イラスト/下北和歌子



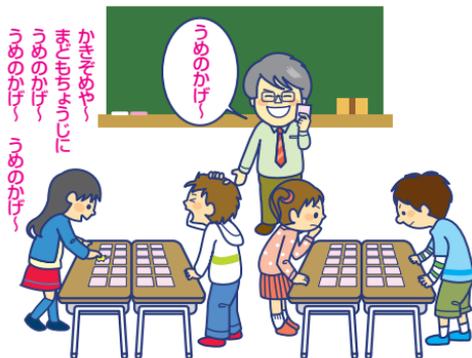
②先生の言った色で遊びます。



①机を向かい合わせにします。



④先生が繰り返し読んだところが
書かれている札を取ります。



③札を並べます。



札の間は指1本分
あけよう。
相手の近くに並べよう。

⑥ お手つきを1枚したら1枚、自分の取った札の中から「場」に出します。もし、1回に2つの札にお手つきしたら2枚出します。



⑤ 間違えた札を触ったら「お手つき」になります。



⑦ 17枚まで読んで終わりにします。たくさんの札を取った人が勝ちです。

いえ、**家でも練習**するといいいよ!



書初や窓「J」字に梅のかげ

取り札を裏返して見よう。五・七・五がすべて書かれているよ。ただし、次の札を読み始めたら見えてはいけないよ。



ポイント



「五色名句百選かるた」の最初の指導方法

手順 1

机を向かい合わせにし、1色（20枚）の札を10枚ずつに分けます。並べ方は横5枚、縦2段で、自分から読めるような向きで置きます。10枚は自分に向き、10枚は相手に向くように並べさせます。

札を自分の方に引き寄せて置く子がいたら、「札は、相手に近い机のはじの所まで動かさない。」と言います。

手順 2

読み手は読み札を見ながら句全体を読みます。そして最後の五音を2～3回、ゆっくりと繰り返して読みます。「柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺。法隆寺。法隆寺。」といった具合です。

手順 3

取り札には五・七・五の最後の五音が書かれています。よく見て読まれた札を取ります。読み手が繰り返す最後の五音が書かれた札取るように言います。

「取れた人」と言って、手をあげさせます。これで「かるた」がどういふものなのかが分かります。

手順 4

「はい」と言って取ることを教えます。
「取るときは『はい』といいなさい。」と言います。
教室が活気づきます。





手順 5

先に札に触った人が勝ちです。2人とも札に触れていた時には手が下にある人、どちらかわからない時にはジャンケンで決めます。ジャンケンというルールを教えます。

手順 6

手の位置を教えます。
「札をさがす時には、手は体のどこかにつけておきます。手を空中でぶらぶらさせてはいけません。」と言います。

手順 7

どの子も札を取っています。その置き方を教えます。
「取った札は、右はしか左はしに置きます。」と言います。

手順 8

お手つきについて教えます。間違った札に触れたら「お手つき」です。自分の札から1枚、出さなくてはなりません。札のない人は取った時にその札を出します。次の札を取った人がその札をもらうことができます。

手順 9

子供が調子にのってきて、教室にざわつきを感じられたら、この「ざわつき」をとりのぞかねばなりません。
「声を出した人は、お手つきとして1枚札を出してもらいます。」と言います。これで静かになります。

手順 10

勝敗について教えます。
17枚まで読んで、多く札を取った人が勝ちです。





回答者：向山洋一

Q1 「五色名句百選かるた」をやる
と、何がよいのですか

A なによりクラスがまとまります。子供たちはかるたに熱中します。

国語教育の一環として俳句を暗唱し、俳句作りをさせる学校は多いので

すが、「五色名句百選かるた」をすることで、幼稚園児、小学生でも楽しみながら俳句を覚えることができます。そして、イメージを膨らませ、表現力が増すことで、他の教科へも良い影響を与えます。

Q2 はじめてやる場合、子供はどのくらいでやり方を覚えますか

A やり方を覚えるには一試合、おもしろさがわかるには三試合で十分です。

Q3 何人でやるのですか

A 二人以上であれば何人でもできます。基本的には一人対一人で行います。

ですから、一対一の二人組が何組もできると考えてください。

もし、クラスの子供の人数が奇数の場合は一人あまります。そのときは一対一の三人組を一グループだけ作ります。

Q 4 **取り札を並べるときに気を付けることはなんですか**

A 並べるときには、次の二つの約束をします。

- 相手に近いところに並べる。
 - 取り札の縦は指一本あけて並べる。
- 取り札の上段に何の札を置くかという決まりはありません。それは自分の作戦です。自分の得意な札を手前に置いておかまいません。

Q 5 **一〇〇枚全部やらないといけないのですか**

A そのようなことはありません。一試合一色だけです。ですから二〇枚だけで一試合が終わります。「今日はピンク(新年)をやりましょう!」と言っではじめます。どの色からはじめてもかまいません。その時の気分や季節で色を選んでください。

Q 6 **取り札の裏を見て良いのですか**

A もちろんです。この点が「五色名句百選かるた」の良さなのです。

- 試合中に取り札の裏を見ても良い。
- ただし、次の札を読み始めたら見るはいけません。

これはルールです。一つの札を読んだ後、次の札が読まれる合間には、取り札の裏を見ることができるので。これで子供たちは百の名句を次から次へと覚えるのです。

Q7 **どんな時間にやればいいのですか**

A 国語の時間や学級活動の時間に行います。三分程度でできますので、朝の会や帰りの会で行ってもいいでしょう。

Q8 **はじめての子供たちに対する読み方は、どのようにすればいいのですか**

A 読み方で大切なことは、はじめはお手本になるように、先生が読むことで

す。俳句を読むのですから「朗々と」「ゆっくり」読んでください。子供たちが句の情景を思い浮かべられるように読んでください。

Q9 **低学年でも「五色名句百選」はできますか**

A 小学校一年生でも、幼稚園の子供でもできます。その場合、意味にこだわらないことが大切です。かるた遊びの一つとして、大いに遊ぶことです。

枚数・人数・時間等はすべて同じです。低学年だからといって特別なことはしなくてかまいません。

ただし、読む速さは、さらにゆっくりしてあげるとよいでしょう。



「五色名句百選かるた」色別一覧表 **ピンク (新年)**

新年は、冬の期間に含まれますが、春夏秋冬とは別にお正月に関する句を集めた「新年」という区分けをしています。

20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

脇差を 横に廻して 雑煮かな
若水や 流るるうちに 去年ごとし
輪飾や 齒朶そりかへる 日の表
まな板に 旭さすなり 芹薺
蓬菜に 聞かばや伊勢の 初便
ふるさとは 同じ声なる 御慶かな
初日さす 硯の海に 波もなし
初鶏や 大和国原 暁けかかり
羽子板や 唯にめでたき うらおもて
七草の 名札新らし 雪の中
弟子つれて 初卯詣の 大工かな
父の座の うしろに掛けぬ 初暦
竹伐つて 嵯峨は初荷の 牛車
汁鍋に 手鞠はね込む 笑ひかな
正月を して出てゆきぬ 鮪船
霜蹴つて 鶏逃げ歩く 出初かな
左義長や 灰ふりかかる 雪の宮
元日や 手を洗ひをる タごころ
書初や 窓も丁字に 梅のかげ
青空に きず一つなし 玉の春

森川許六 加賀千代女 高田蝶衣 泉鏡花 松尾芭蕉 成田蒼虬 正岡子規 村上露月 服部風雪 鈴木花菱 村上鬼城 佐藤紅緑 大谷句仏 夏目成美 松本たかし 田中玉城 渡辺水巴 芥川龍之介 堀麦水 小林一茶

季語
玉の春 書初 元日 左義長 出初 正月 手鞠 初荷 初暦 初卯詣 七草 羽子板 初鶏 初日 御慶 蓬菜 薺 輪飾 若水 雑煮



「五色名句百選かるた」色別一覧表 **水色（春）**

春は、立春から立夏の前日までの期間という区分けをしています。

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1								
若鮎の わかあゆ 二手になりて ふたて 上りけり のぼ	立春の りつしゆん 雪のふかさよ ゆき 手鞠唄 てまりうた	雪とけて ゆきとけて 村一はいの むらいつはいの 子どもかな こどもかな	眼にあてて めにあてて 海が透くなり うみがすくくなり 桜貝 さくらがひ	古池や ふるいけ 蛙飛びこむ かはづとこむ 水の音 みづのね	春の日や はるのひや 庭に雀の にはすずめ 砂あびて すなあびて	菜の花や なのはなや 月は東に つきはひがし 日は西に ひはにし	濁流に だぐりゅう 腹ひたし飛ぶ はらひたし飛び 燕かな つばめかな	卒業の そつげふ 兄と来てゐる あにきと来てゐる 堤かな つみ	ぜんまいの ぜんまいの の字ばかりの のじばかりの 寂光土 じやくわうど	董ほどな すんれほどな 小さき人に ちひさきひとに 生れたし うまれたし	白魚や しろうま さながら動く さながら動く 水の色 みづのいろ	冴え返り さいえがへり 冴え返りつつ さいえがへりつつ 春央ば はるのなつか	清水の しみづの 上から出たり うへからでたり 春の月 はるのつき	大原や おほはらの 蝶の出で舞ふ ま蝶の出でまふ 朧月 おぼろつき	梅一輪 うめいちりん 一輪ほどの いちりんほどの 暖かさ あたたかさ	うたたねの うたたねの 脇のしびれや わきのしびれや 春の宵 はるのよひ	動くとも うごくとも 見えて畑打つ みえてはたうつ 男かな おとこかな	鶯の隣まで来て うぐひすのとなりまできて ゆふべかな ゆふべかな	赤い椿 あかつばき 白い椿と しろつばきと 落ちにけり おちにけり	河東碧梧桐 かはひがしへきごじゆ 加賀千代女 かがのちよぢよ 向井去来 むかひのきよら	佐藤紅緑 さとうこうろく 服部嵐雪 はつべのあらしゆき 内藤丈草 ないとうぢやうそう	森川許六 もりがわのきよろく 西山泊雲 にしやまのくわん 小西来山 こにしらいざん	夏目漱石 なつめそうせき 川端茅舎 かはたぼうしや 芝不器男 しばふきおとこ	村上鬼城 むらかみきじやう 与謝蕪村 よせうそむら	上島鬼貫 うへしまのきくわん 松尾芭蕉 まつおのばせう	松本たかし まつもとたかし 小林一茶 こばやしいつさ	石橋秀野 いしばしひでの 正岡子規 まさおかしき

季語

若鮎 わかあゆ	立春 りつしゆん	雪解 ゆきとけ	桜貝 さくらがひ	蛙 かはづ	春の日 はるのひ	菜の花 なのはな	燕 つばめ	卒業 そつげふ	ぜんまい	董 すんれ	白魚 しろうま	冴え返る さいえがへる	春の月 はるのつき	朧月 おぼろつき	梅 うめ	春の宵 はるのよひ	畑打つ はたうつ	鶯 うぐひす	椿 つばき
------------	-------------	------------	-------------	----------	-------------	-------------	----------	------------	------	----------	------------	----------------	--------------	-------------	---------	--------------	-------------	-----------	----------



「五色名句百選かるた」色別一覧表 **ページュ色 (秋)**

秋は、立秋から立冬の前日までの期間という区分けをしています。

20	山につき	山にはなれつ	秋の雲
19	やはらかに	人分け行くや	勝角力
18	名月をとつて	くれると泣く	子かな
17	皆人の	昼寝の種や	秋の月
16	ひらひらと	月光降りぬ	貝割菜
15	歯にあてて	雪の香ふ	かき
14	はぜつるや	水村山郭	酒旗ノ風
13	某は	案山子にて候	雀どの
12	澄む月や	髭をたて	たる
11	涼しさの	かたまりな	れや
10	新蕎麦や	熊野へつづく	吉野山
9	四五人に	月落ちかかる	をどりかな
8	この道の	富士になり行く	芒かな
7	行水の	すて所なき	虫の声
6	風に乗る	川霧軽し	高瀬舟
5	かざす手の	うら透き通る	もみぢかな
4	柿くへば	鐘が鳴るなり	法隆寺
3	親よりも	白き羊や	今朝の秋
2	石山の	石より白し	秋の風
1	朝顔に	釣瓶とられて	もらひ水
			加賀千代女
			松尾芭蕉
			村上鬼城
			正岡子規
			安井大江丸
			西山宗因
			上島鬼貫
			河東碧梧桐
			与謝蕪村
			森川許六
			安原貞室
			榎本其角
			夏目漱石
			服部嵐雪
			渡辺水巴
			川端茅舎
			松永貞徳
			小林一茶
			高井几董
			堀麦水

季語

朝顔	釣瓶	もらひ水
秋の風	今朝の秋	法隆寺
もみぢ	川霧	高瀬舟
虫の声	芒	をどり
新蕎麦	吉野山	夜半の月
案山子	はぜつり	林檎
貝割菜	秋の月	名月
勝角力	秋の雲	



「五色名句百選かるた」色別一覧表 **黒色 (冬)**

冬は、立冬から立春の前日までの期間という区分けをしています。

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
斧 <small>き</small> 入 <small>い</small> れて	炉 <small>ろ</small> 開 <small>き</small> き	夢 <small>ゆめ</small> に舞 <small>ま</small> ふ	破 <small>やぶ</small> る子 <small>こ</small> の	水 <small>みづ</small> 鳥 <small>とり</small> や	更 <small>さら</small> くる夜 <small>よ</small>	初 <small>はつ</small> しぐれ	流 <small>なが</small> れたる	な <small>な</small> がな <small>が</small> と	と <small>と</small> び下 <small>お</small> りて	手 <small>て</small> 枕 <small>まくら</small> の	玉 <small>たま</small> 川の	大 <small>だい</small> 根 <small>こん</small> 引 <small>ひ</small> き	霜 <small>しも</small> 強 <small>つよ</small> し	小 <small>こ</small> 春 <small>はる</small> 日 <small>ひ</small> や	木 <small>こ</small> がら <small>ら</small> しや	風 <small>かぜ</small> に聞 <small>き</small> け	大 <small>おほ</small> 晦 <small>み</small> 日 <small>ひ</small>	襟 <small>えり</small> 巻 <small>ま</small> に	い <small>い</small> くた <small>た</small> びも
香 <small>か</small> におどろくや	宇 <small>う</small> 治 <small>ぢ</small> から届 <small>と</small> く	能 <small>のう</small> 美 <small>み</small> しや	な <small>な</small> く <small>く</small> て障 <small>しやう</small> 子 <small>こ</small> の	む <small>む</small> か <small>か</small> ふ <small>ふ</small> の岸 <small>きし</small>	炭 <small>すみ</small> も <small>も</small> て炭 <small>すみ</small> を	猿 <small>さる</small> も小 <small>こ</small> 菟 <small>う</small> を	花 <small>はな</small> 屋 <small>や</small> の	川 <small>かは</small> 一 <small>ひと</small> 筋 <small>すぢ</small> や	弾 <small>は</small> み <small>み</small> や <small>ま</small> ず <small>ず</small> よ	夢 <small>ゆめ</small> に <small>に</small> ふ <small>り</small> こ <small>む</small>	一 <small>ひと</small> 筋 <small>すぢ</small> 光 <small>ひかり</small> る	大 <small>だい</small> 根 <small>こん</small> で道 <small>みち</small> を	蓮 <small>れんげ</small> 華 <small>げ</small> と開 <small>ひら</small> く	石 <small>いし</small> を噛 <small>か</small> み <small>る</small> る	何 <small>なに</small> れか先 <small>ま</small> に	定 <small>さだ</small> め	定 <small>さだ</small> め	首 <small>くび</small> 引 <small>ひ</small> 入 <small>い</small> れて	雪 <small>ゆき</small> の深 <small>ふか</small> さを
冬 <small>ふゆ</small> 木 <small>こ</small> 立 <small>たち</small>	宇 <small>う</small> 治 <small>ぢ</small> の	冬 <small>ふゆ</small> 籠 <small>こもり</small>	寒 <small>さむ</small> さ哉 <small>かな</small>	つ <small>つ</small> う <small>う</small> い <small>い</small> つ <small>つ</small> う <small>う</small>	く <small>く</small> だ <small>く</small> 音 <small>ね</small>	ほ <small>ほ</small> し <small>し</small> げ <small>げ</small> な <small>な</small> り	氷 <small>こほり</small> りけり	雪 <small>ゆき</small> の原 <small>はら</small>	寒 <small>かん</small> 雀 <small>すずめ</small>	霰 <small>あられ</small> かな	冬 <small>ふゆ</small> 野 <small>の</small> かな	教 <small>おし</small> へけり	ハ <small>や</small> ケ <small>が</small> 岳 <small>だけ</small>	赤 <small>あか</small> 蜻 <small>とんぼ</small> 蛉 <small>ぼ</small>	海 <small>うみ</small> の	散 <small>ち</small> る	定 <small>さだ</small> め	冬 <small>ふゆ</small> の月 <small>つき</small>	尋 <small>たづ</small> ねけり
与 <small>よ</small> 謝 <small>さ</small> 蕪 <small>ぶ</small> 村 <small>むら</small>	巖 <small>いは</small> 谷 <small>や</small> 小 <small>こ</small> 波 <small>なみ</small>	松 <small>まつ</small> 本 <small>もと</small> たかし	加 <small>か</small> 賀 <small>が</small> 千 <small>ち</small> 代 <small>よ</small> 女 <small>め</small>	大 <small>おほ</small> 島 <small>しま</small> 蓼 <small>れう</small> 太 <small>た</small>	大 <small>おほ</small> 島 <small>しま</small> 蓼 <small>れう</small> 太 <small>た</small>	松 <small>まつ</small> 尾 <small>おし</small> 芭 <small>ば</small> 蕉 <small>せう</small>	河 <small>かは</small> 東 <small>ひがし</small> 碧 <small>はろ</small> 梧 <small>こ</small> 桐 <small>とう</small>	川 <small>かは</small> 端 <small>たん</small> 茅 <small>ぼう</small> 舍 <small>しや</small>	野 <small>の</small> 沢 <small>ざ</small> 凡 <small>ぼん</small> 兆 <small>てう</small>	二 <small>ふた</small> 葉 <small>は</small> 亭 <small>てい</small> 四 <small>し</small> 迷 <small>めい</small>	内 <small>ない</small> 藤 <small>とう</small> 鳴 <small>めい</small> 雪 <small>せつ</small>	小 <small>こ</small> 林 <small>ばやし</small> 一 <small>いつ</small> 茶 <small>ちや</small>	前 <small>まへ</small> 田 <small>で</small> 普 <small>ふ</small> 羅 <small>ら</small>	村 <small>むら</small> 上 <small>かみ</small> 鬼 <small>おに</small> 城 <small>じやう</small>	芥 <small>あ</small> 川 <small>か</small> 龍 <small>りゆう</small> 之 <small>の</small> 介 <small>け</small>	夏 <small>なつ</small> 目 <small>め</small> 漱 <small>そ</small> 石 <small>せき</small>	井 <small>い</small> 原 <small>はら</small> 西 <small>さい</small> 鶴 <small>かく</small>	杉 <small>すぎ</small> 山 <small>さん</small> 杉 <small>ふう</small> 風 <small>ふう</small>	正 <small>まさ</small> 岡 <small>おか</small> 子 <small>こ</small> 規 <small>き</small>
冬 <small>ふゆ</small> 木 <small>こ</small> 立 <small>たち</small>	炉 <small>ろ</small> 開 <small>き</small> き	冬 <small>ふゆ</small> 籠 <small>こもり</small>	寒 <small>さむ</small> さ	水 <small>みづ</small> 鳥 <small>とり</small>	炭 <small>すみ</small>	初 <small>はつ</small> しぐれ	氷 <small>こほり</small>	雪 <small>ゆき</small> の原 <small>はら</small>	寒 <small>かん</small> 雀 <small>すずめ</small>	霰 <small>あられ</small>	冬 <small>ふゆ</small> 野 <small>の</small>	大 <small>だい</small> 根 <small>こん</small> 引 <small>ひ</small> き	霜 <small>しも</small>	小 <small>こ</small> 春 <small>はる</small> 日 <small>ひ</small> や	木 <small>こ</small> がら <small>ら</small> し	木 <small>こ</small> の葉 <small>は</small>	大 <small>おほ</small> 晦 <small>み</small> 日 <small>ひ</small>	冬 <small>ふゆ</small> の月 <small>つき</small>	雪 <small>ゆき</small>

季語



『五色名句百選かるた』 関連授業案



TOSS ランド (指導案共有サイト <http://www.tos-land.net>)
遊び方や授業実践案を活用することができます。

コンテンツNo	コンテンツ名
1815143	実践記録五色名句百選かるた 最初の指導
3856598	五色名句百選かるたを一字読解で分析する
2473254	「五色名句百選かるた」の新しい遊び方～覚えないと負けるゲーム～
6287282	「五色名句百選かるた」で季語を学ぶ
6073584	「汁鍋に手鞠はね込む笑ひかな」(夏目成美) 指導案例
5945656	名句百選カルタの授業
2724651	「赤い椿白い椿と落ちにけり」(河東碧梧桐) 名句百選授業
4760292	「春の日や庭に雀の砂あびて」(上島鬼貫) 指導案
7885509	服部嵐雪～五色名句百選かるた～
7645885	五色名句百選カルタ授業案
4509527	「水鳥やむかふの岸へつういつい」(広瀬惟然) 名句百選カルタ (冬)
4217589	「新蕎麦や熊野へつづく吉野山」(森川許六) を授業する
4614216	「石山の石より白し秋の風」(松尾芭蕉) 授業プラン
3459967	「五色名句百選かるた」指導案 (服部嵐雪)
7891347	「蛇の皮ぬぎてかけたる桜かな」(森川許六) の授業
6135002	「木がらしや目刺にのこる海のいろ」(芥川龍之介) 実践記録

五色名句百選かるた 指導の手引き

2018年12月1日 初版第1刷発行

監修 角川書店・向山洋一

発行者 株式会社東京教育技術研究所 URL: <http://tiotoss.jp>
〒142-0064 東京都品川区旗の台2-4-12 TOSSビル
TEL 03 (3787) 6564 FAX 03 (5702) 2384

印刷・製本 株式会社 文星閣